

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年2月15日

事業所名 帯広市幼児ことばの教室

		チェック項目	は い	い え	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な数の指導室があり、広さ的にも十分に分なスペースはあります。 ・同じ時間に通所して来る子どもで、使いたい部屋を決めます。話し合いやジャンケン等職員の加わりながら行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も左記を継続します。
	②	職員の配置数は適切である	0	3	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度末から、産前産後休暇に入り、今年度一杯育児休業を取得していた職員が1名と、急遽ご主人の転勤で道外に転出することになった職員の代替を募集したのですが、採用に至らず、今年度は2名の指導員で担当することになりました。精一杯努力してきたつもりではありましたが、様々なご迷惑とご心配をお掛けしてしまったことを、心より反省をしております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度は、育児休業を終えて復帰する職員と、新規に従事してもらえぬ職員が入職していただければ、指導員が4人体制になることから、お子さんの指導・支援に専念できる体制が整えられると思います。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に遊べる時と、指導員に従ってお勉強をする時を、お子さんにきちっとわかってもらえるようにしようと、お勉強するときは、床の上ではなく、机と椅子のあるところするなど、意識してかかわっています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も左記を継続します。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・古い物ではありますが、子どもとコミュニケーションをとる上では楽しめるものも多いと思っています。壊れると玩具修理のボランティアさんに修理してもらいながら使用しています。使えそうな玩具があったら、是非購入し、新しい気分がかかわりが取れるとよいと思っています。 ・新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐために、毎回指導終了後には、アルコール消毒を行っています。個別指導のため、消毒には大きな手間はかかりませんが、清潔さを保つのもなかなか大変なことです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・玩具の古さは、以前から気にはなっていましたが、なかなか子どもときちっと向き合えるような玩具を見つけることができず、そのままになっていました。壊れて使えないような玩具は廃棄していますが、確かにパッケージがガムテープで補強され汚らしかったり、玩具も色がくすんでいたりと、年季が入っているものが多くあると思います。 ・最近では、テーブルゲームが流行ってきており、またリバイバルゲームも人気があるようで、購入のチャンスかもしれません。時間を見計らって玩具を購入してきたいと思っています。 ・清潔を保てるよう今後も清掃や消毒を行っていきます。
	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	0	<ul style="list-style-type: none"> ・相談から始まり、検査をして評価をし、今後お子さんに必要な指導・支援について全員で話し合い、個別支援計画書を作成し、保護者に提示します。半年後、中間評価を行 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も職員全員が共通認識を持ち、左記の通り継続します。

業務改善				って、目標の達成状況やかかわり方、指導方法などを話し合い、再度個別支援計画を立案し、保護者に提示するというサイクルで、全員参加して会議を行い進めています。		
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3人	0人	・保護者の事業所に対する評価は、良い評価も悪い評価もしっかり受け止め、良い評価は今後の糧にし、悪い評価は反省しながら改善向かえるよう、すぐに着手します。	・事業所内で解決できるものは、早急に取り組みます。また事業所だけでは対応しきれない内容については、当法人や帯広市と話し合いながら進めてきたいと思います。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3人	0人	・教室だよりに、集計した結果を保護者用と事業者用の両方を添付し、保護者や関係機関に配付します。また当法人のホームページにも年度毎の評価を掲載しています。	・今後も左記を継続します。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3人	0人	・当法人の監査・理事会・評議委員会の中で、「事業報告」を行い、指摘内容についてはすぐに対応するようにしている。また「地域福祉実践計画評価委員会」の中で出された意見について、次年度の実勢計画に反映させている。	・今後も左記を継続します。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3人	0人	・年間研修計画を作成し、職員全員に研修の機会が当たるようにしています。	・新型コロナ感染拡大防止のため、ほとんどがオンライン研修でしたが、参加できました。また教室内で行っている個別支援会議は、実際の指導事例の研修でもあり、子どもの見方や指導計画の参考になる研修だと思っています。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	3人	0人	・指導を開始する前には、お子さんの検査を行うため、家族歴、生育歴や養育歴など詳細をお聞きし、また保育所、こども園、幼稚園などの集団生活での情報を頂き、お子さんの現在の状況と合わせながら必要な指導・支援を考えていきます。指導開始後も、お子さんの状況に合わせながら、家庭での様子やかかわり、集団活動の様子などの情報を取りながら、保護者のニーズも含め、客観的に分析して、個別支援計画書を作成し、保護者に提示しています。	・今後も左記を継続します。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3人	0人	・通所してきているお子さんに対応した(ことばに特化した内容)独自のアセスメントツールを使用しています。	・標準化されたアセスメントツールは使用しませんが、40年以上の歴史の中で独自に使用されてきているアセスメントツールを、その時代に合わせて修正・変更しながら使用してきています。

適切な支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3人	0人	・児童発達支援ガイドラインを参考に、当事業所を利用しているお子さんに必要な項目を選択し、なるべく具体的に分かりやすく、個別支援計画書を作成しています。	・お子さんの成長に合わせながら、計画書の見直しを行い、その都度お子さんに必要な支援ができるように、個別支援計画書を作成していけるよう努めます。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	3人	0人	・個別支援計画に添いながら、指導・支援を行っています。その指導・支援が個別支援計画書に添って進められているかについては、中間評価の会議で、職員全員で話し合い、必要な修正を行っています。	・個別指導のため、指導員一人でお子さんの指導・支援には当たりますが、お子さんの状況については、全員の共通理解の基で、話し合いを重ねながら必要な修正を行っています。従って、指導員一人の考えで推し進めるようなことはありません。 ・今後も左記を継続します。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	—	—	・個別指導のため、当日の活動プログラムをチームで立案することはありませんが、指導員同士で話をしながら、自分の指導・支援に生かしています。	・指導員同士の話の中でのアイデアは、会議の中で出されるものはまた別に、参考になるものが多いように思います。 ・今後も左記を継続します。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3人	0人	・お子さんの好みや興味を把握しながら、遊びと指導を分けた上で、飽きないように工夫をしています。	・指導・支援の中で楽しかったことや、お子さん方の反応などを出し合う中で、そのアイデアが参考になったりすることがあります。 ・今後も指導・支援がマンネリ化しないような工夫を続けていきます。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	3人	0人	・当事業所は、個別指導のためのため、お子さんが所属している保育所や認定こども園・幼稚園と連絡を取らせていただきながら個別支援計画を立てています。	・お子さんの所属している保育所・認定こども園・幼稚園に年2回程度訪問させていただき、お子さんの様子や担任の先生と情報交換した内容を参考にさせていただきながら、個別支援計画書の立案や修正の参考にさせていただいています。 ・ただし、新型コロナウイルス感染拡大のため、訪問ができず、電話での情報交換が主体となってしまっています。終息の折には、訪問させていただき、見学も含め情報交換をさせていただきたいと思っています。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	—	—	・個別指導なので、職員間で指導の内容までの打ち合わせはしませんが、指導員が前回の記録を見返し、今日行う指導・支援内容を確認してから開始するようにしています。	・今後もこの内容を継続します。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	—	—	・個別指導のため、毎回振り返りは行っていませんが、必要に応じて気づきや支援の方法などの話題提供があると、そこで話し合うことはあります。	・今後も左記を継続します。

	⑱	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3人	0人	・一人のお子さんの指導が終了した後は、記録を取る時間が確保されているので、毎回記録をしています。	・前回行った指導・支援の記録を見返すことで、今日すべき指導が分かるようになってきているため、記録は指導・支援には欠かせないものだと思います。 ・今後も左記を継続します。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3人	0人	・半年に1回の割合で、個別支援計画書の見直しを行います。その見直しのためには、子どもの現状を正しく評価しておかなければならないことから、中間評価を行い、それを基に次の個別支援計画書の作成を行っています。	・新規のお子さんが入所の際に実施する「こぼの検査」をもとに、個別支援計画書が作成されますので、以後その日を基準に半年に1回ずつ、中間評価と個別支援計画の会議実施し、見直しを行っています。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	—	—	・セルフプランのため相談支援事業所を利用している家庭はなく、特にかかわりはありません。	・今後、相談支援事業所を活用しているお子さんについての、サービス担当者会議が開かれた時には、必要に応じて必要な人間が参画します。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3人	0人	・当事業所が、保健福祉センター内にあるため、子育て支援課や健康推進課とのつながりは常にあり、必要な連絡、連携を取らせていただいています。	・今後も左記を継続します。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	—	—		
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	—	—		
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	—	—		
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3人	0人	・4月から新1年生になるお子さんで、言語通級指導教室や特別支援学級へ通級や通学となったお子さんについては、3月末に引き継ぎを行っています。	・言語通級指導教室や特別支援学級とは、保護者の同意を得た上で、今までの指導・支援の経過や内容、お子さんの特徴など、必要な情報の提供と必要な配慮をお願いしています。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0人	3人	・児童発達支援センターや児童発達支援事業所等との連携や研修は特に行っていません。	・必要に応じ、連携が取れるよう考えていきたいと思えます。

関係機関や保護者との連携	⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	—	—	・当事業所を利用しているお子さん全員が、保育所や認定こども園、幼稚園を活用しており、そこで障害の有る子無いうにかかわらず、普通に活動を行っています。従って事業所として意図的にそういった活動を設ける必要はないと考えます。	・当事業所は個別指導のため、集団でのお子さんの活動はとても重要であり、各保育所・認定こども園・幼稚園にお伺いし、お子さんの適応の様子や、また担任の先生と情報共有するなどして、指導・支援に生かしています。
	㉑	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3人	0人	・平日の午前中に開催される場合の参加は難しいのですが、土日開催の研修会には参加しています。	・今後も左記を継続します。
	㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3人	0人	・毎回の指導・支援後に保護者の方と話す時間を設けてあり、その日の指導・支援の状況や家庭での様子などをお聞きし、話し合いながら、共通認識を持つようになっています。	・今後も左記を継続します。
	㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3人	0人	・ペアレント・トレーニングと称して、プログラムを組みながら支援を行っているわけではありませんが、通常の指導・支援の際、保護者が観察室からその様子を観察しています。従って指導員のかかわり方と、自分のかかわりを重ね合わせながら、振り返っておられる方が多いと思います。また保護者に同室してもらい、お子さんの成長に合わせながら、かかわり方を実践してもらえる時間も設けています。	・今後も左記を継続します。
	㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3人	0人	・利用契約を結ぶときに、重要事項説明書の説明を行い、保護者からの質問には丁寧に答えています。	・今後も分かりやすく、丁寧な説明に心掛けていきます。
	㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	3人	0人	・年に2回は、個別支援計画書を作成し、保護者に説明の上、同意を得ています。	・今後も左記を継続します。
	㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3人	0人	・毎回の指導後に、保護者と話す時間を設けており、相談にも応じています。また別時間を設けての相談にも応じています。	・今後も左記を継続します。
	㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0人	3人	・当事業所独自の父母会はないことから、父母会の必要を申し出られた場合は、既存の「帯広地区こばを育てる親の会」の入会の案内を行っています。	・保護者の方から、父母会の設立などの要望があった場合には、検討をさせていただきます。

保護者への説明責任	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	3人	0人	・㊤でも答えたように、毎回の指導後に対応できるような体制を取っています。指導員の対応では難しい場合には、児童発達管理責任者が対応するなど、適切に対応できるように心掛けています。	・今後も左記を継続します。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3人	0人	・教室だよりを発行し、行事予定や学習資料、指導のひとこまなどを掲載し、保護者や保育所・認定こども園・幼稚園などの所属に配付しています。	・今後も左記を継続します。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	3人	0人	・得られた情報は、紙面で得られたもの、またデータなどについても、適切に管理しています。所属訪問や引継ぎに関する「個人情報同意書」をいただき、その範囲以内で行っています。またその際再度口頭での同意も再度受けるようにしています。	・今後も左記を継続します。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3人	0人	・お子さんや保護者の方に伝わりやすいように、丁寧に伝えるように心掛けています。	・今後も左記を継続します。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0人	3人	・当法人が行っている「社協フェスタ」「赤い羽根共同募金」などの行事には、多くの市民やボランティアの方が参加されますので、その中で事業所の理解を図っています。昨年度に引き続き、新型コロナ感染拡大防止のために、行事が中止となっています。	・今後、新型コロナ感染の終息が見込まれ、行事が再開された際には、またその中で事業所の理解を図っていきたくと思っています。
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3人	0人	・契約時に重要事項説明書の中での大枠の説明と、また感染予防に関しては、教室だよりの中で周知するなどの対応は行っています。ただ発生を想定しての訓練までは行えていません。	・各緊急マニュアルは策定していますが、発生を想定した訓練まではまだできていません。今後発生に対応した訓練の実施に向けて、検討し実施していきたいと思っています。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3人	0人	・当事業所が入っている建物の避難訓練には職員が参加し、非常口、非常ベル、防火戸、避難経路、消火器等の状況等を把握し、避難・誘導などについての訓練は受けています。また、事業所独自で避難経路図を作成し、わかりやすい場所に掲示し、目で見て確認がし易いようにしてあります。	・個別指導のため、当事業所が入って居る建物の避難訓練には参加が難しく、職員が参加しながらももの場合のシミュレーションを行っています。従って、契約の時に、保護者とお子さんを連れて、避難経路に沿って非常口まで誘導し、確認をしてもらっています。
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3人	0人	・来所相談、事前アンケート、ことばの検査の面接などの中で、お子さんの状況について確認をさせていただいています。	・今後も左記を継続します。

非常時等の対応	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	—	—	・当事業所では、食物の提供は行っていません。	・アレルギーの情報については、食物の提供の有無かかわらず確認はとっております。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	0人	3人	・ヒヤリハットにかかわる事案はありませんでした。	・今後も注意を怠ることなく指導・支援に当たらなければならないと思っております。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3人	0人	・当事業所における虐待に関わる事案はありませんでした。また研修についてはオンラインでの虐待防止研修を受講しました。	・児童に関する虐待防止の研修を見つけることができませんでしたが、帯広市障害福祉課主催の研修を受けることができ、とても参考になりました。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	0人	3人	・身体拘束を行うような事案はありません。	・今後も身体拘束を行うような場面は作りません。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。